

トツプ ランナー

～秋田県の貿易先進レポート～

平成19年2月まで毎月発行

vol.3 平成18年8月

バックナンバーはこちら→

<http://www.a-trade.or.jp/toprun/toprun.html>



(社)秋田県貿易促進協会

秋田県内においては、積極的に秋田産の食品輸出を展開する数少ない企業である。数社ある関係企業を経営し、多忙を極める嶋田社長は、自社の飲食店に立つことも。

秋田の貿易商社として役割を果たす同社の事例をレポートする。

「初めは商品はなかなか売れない。ただ、そこで簡単にあきらめてはいけない。」



(有)サクラポート
嶋田康子 代表取締役会長

独立独歩

秋田港周辺を地盤とするサクラポートの嶋田会長は、シンガポールなど東南アジアを中心に食品輸出事業を展開してきた。輸出事業者の多くは製造業だが、同社は製造部門はなく、秋田県の食品を海外に売る専門商社の機能を持つ。事務所は香港にも設置し、商圏を拡大する。

「まだ一步を踏み出したばかり、これからだ。」と話すが、本県の県産品を何でも海外へ輸出する頼もしい企業でもある。

枚挙にいとまがない

サクラポートのほかに、秋田県貿易(株)、(株)サンライズシステムズ、日の出運輸企業(株)を営营する。業種も販売業、飲食店、不動産、運輸など多種多様だ。これら会社数もさることながら、取り扱う食品も数知れない。稲庭うどんに加え、きりたんぼ、米菓子、米や酒に加え、最近では、佃煮も引き合いがある。台湾やシンガポールに向けて出荷される。

ベイパラダイス

02年4月、秋田港の活性化を目指し、港の眺望が人気のベ

イパラダイスをオープンさせた。これは秋田県貿易(株)の事業である。これまでテナント運営をしながら、直営店も経営する。忙しい時には、自ら店頭で采配をふるうこともある。

各資源が織りなす妙

別業種の技術がもとで新商品の開発と販路開拓につながった例もある。長男の秀之さんは東京で機械用のソフトを開発しているシステムエンジニア。アルコールが検知されるとエンジンがかからない米国の機械を日本の飲酒運転抑止システムにつくりかえた。まもなく、日本初の装置として、日本のトラック・バス業界向けに販売される。これまで蓄積された情報、異業種の人材、多角化経営の生み出す技術が織りなす妙である。



飲酒運転防止 アルコ・インターロックPRO

販売戦略

新市場を開拓していくなら、まず富裕層を対象に売り込みたい。嶋田社長は、「百貨店などで開催されるフェアに参加し、販売実績を築き上げてきた。」と言う。東南アジア等における日系百貨店の客層は、駐在する日本人や現地の富裕層が中心。中間層まで取り込む日本とは異なる。それ故、顧客との信頼関係の構築が重要になってくる。

シンガポール進出

日本と経済格差のある東南アジア市場で目をつけたのは、国民の平均所得が著しく高いシンガポール。香港と同様、昔から中継貿易国として栄え、まもなく日本とは自由貿易が実現する。



シンガポールにおける東北フェア '05

しかし、97年のヤオハン、00年のそごう、03年の大丸が相次ぎ撤退していく上、SARSが去った後は鳥インフルエンザ問題が発生。食品業界は完全に逆風の中で、明治屋(MEIDIYA)や伊勢丹の協力を得ながら、秋田県産品を売り込んでいます。

台湾・香港

昨年からは開拓している台湾・香港市場では、健康食品など日本食品が良く売れる。成果は今ひとつだが徐々に業績を伸ばしている。思いついたらすぐに実践すること、を身上としながらも、「初めは商品がなかなか売れない。ただ、そこであきらめてはいけない。」と語る。ひたむきに売り込みを続けてきた労苦がにじみでる言葉だ。

これからはロシア

東南アジアに加え、台湾・香港の市場開拓を進めた嶋田社長は、「これからはロシア」と意気込む。

市場化経済に移行して以来、7年連続で年7%程度の経済成長を続けるロシア。03年にはイギリスの名門サッカークラブであるチェルシーをロシア人実業家が266億円で買収した。モスクワではトヨタ最高級車レクサスが毎年



台湾高雄の大統百貨店でのフェア '05

2千台売れている(日本の販売店の10倍超)。

成長著しいロシアでは今、興味深い現象が起こっている。今年3月まで秋田に赴任し、現在ジェトロモスクワの浅元さんは、「最近、投資が舞い込むのと同様に、モスクワミッションの企画が急増している。」と話す。

県内でも、同地域への視察を希望する声が強まっている。こうした中、貿易促進協会は、モスクワなどへのミッション派遣を予定している。

嶋田社長は、「日本食品を取り扱うスーパーを視察したい。」と考える。生活事情や労働力、生産性その他の事情をしっかりと観察し、次につなげたいようだ。

チャレンジスピリット

人口減少と高齢化で、将来的には国内販路や国内需要が減少していく。その一方、海外では新興国が多数台頭し、富裕層が世界各地に拡大している。以前にも増して輸出による販路拡大は重要になる。嶋田社長は、「国内で販路を拡大することはあまり考えていない。」と言う。

世界の市場を機微に読み取る必要性は今後さらに増す。どこにビジネスチャンスがあるのかを的確にとらえ、積極果敢にチャレンジする事業者が今後多数輩出されることが秋田県経済の発展につながることは間違いない。



秋田港のベイパラダイス

〒011-0945 秋田市土崎港西一丁目10-45
TEL : 018-845-8832 FAX : 018-845-8826

有)サクラポート